



#沖縄 #日の出

新年のご挨拶

院長 土谷 治子

新年あけましておめでとうございます。

昨年2024年は、能登半島地震をはじめ、各地で地震や水害が相次ぎ、自然の脅威を改めて実感させられる一年でした。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

2025年は「乙巳(きのとみ)」の年です。「乙」には植物が芽吹き、成長していく様子を、「巳」には蛇が脱皮し、新たに生まれ変わる意味があるとされています。この象徴の通り、本年は当院も新たな挑戦と変革を重ね、進化し続ける一年にしたいと考えております。

昨年12月には、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入し、より高度な医療の提供を目指して取り組んでおります。本年4月からは新たに泌尿器科を開設し、心臓血管外科や泌尿器科における「da Vinci Xi」による手術体制の構築に向け、準備を進めております。また、循環器内科では、心房細動に対するパルスフィールドアブレーションを開始したほか、左心耳閉鎖システム「Watchman」を用いた治療も予定しております。

さらに、これら先端技術の導入にとどまらず、救急体制の一層の強化や逆紹介の推進にも力を注ぎ、地域の先生方との連携を深めながら「地域に根差した病院づくり」を目指してまいります。当院の理念である「いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう」を胸に、地域住民の皆様にご信頼される病院であり続けるため、柔軟に変化に対応していく所存です。

本年もどうぞ変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。2025年が皆様にとって、健康で実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。



産婦人科

副部長 道方 香織

明けましておめでとうございます。日頃からご支援いただき、誠にありがとうございます。
現在、4名の常勤、4名の非常勤医師で診療を行っています。

婦人科では、引き続き子宮鏡検査、子宮鏡下手術を多く行っています。外来での子宮鏡検査も症例が増えていますが、できるだけお待たせすることのないよう工夫を行っています。

また、昨年4月に経口妊娠中絶薬メフィーゴパック®の処方を開始しました。約1割の方は、中絶不成功のため手術の併用が必要になるとされていますが、内服のみで成功する場合は母体への侵襲がかなり小さいと実感しています。ただ、使用できる妊娠週数が限られているため、妊娠中絶をせざるを得ない方でこの方法を希望される場合は、なるべく早くご紹介ください。

産科では、国内の出生数が年々減少を続け、2024年は70万人を下回ることが予想されています。このような中、ハイリスク妊娠分娩への対応を引き続き行っています。当科でも分娩数は減少傾向ですが、2023年以降の帝王切開率は約33%、緊急帝王切開率は約17%と徐々に増加傾向です。母体搬送も可能な限り引き受けて参ります。

また、産後ケア入院も行っており、他院で分娩された方にもご利用いただいています。これからも地域医療に貢献できるよう、努めて参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。



写真左より 土谷院長、金子医師、道方医師、鍵元医師、原医師、吉本医師、小出医師、保谷医師

皮膚科

医長 渡邊 遥

新年明けましておめでとうございます。

当科外来では湿疹皮膚炎、蕁麻疹、皮膚腫瘍、外傷、皮膚感染症等幅広く診療を行っております。特に当院は下肢虚血やうっ滞性潰瘍等の難治性潰瘍の症例が多く、木曜日は創傷ケアセンターとして専門外来を行っており、SPP（皮膚組織還流圧）検査での血流評価や陰圧閉鎖療法等も行っています。昨年度は、2023年1月より発売された日本初のヒト羊膜使用組織治癒促進用材料であるエピフィックス®を導入し、糖尿病性足潰瘍、うっ滞性皮膚潰瘍各1例に使用しました。必要時他科とも連携し診療を行っていますので、難治性潰瘍でお困りの症例がありましたらご相談いただけますと幸いです。

また、当科では足壊疽のマイナーアンプテーションのほか、局所麻酔下での良性腫瘍摘出等の手術にも対応しております。

また、原発性局所多汗症に対するボトックス治療も引き続き行っています。ボトックス注射は1回の施術で高い効果が期待でき、4~7か月効果が持続するというメリットがありますので、多汗症でお困りの方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

総合病院の皮膚科として、微力ながら地域医療に貢献できるよう、努力してまいります。本年もご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

内分泌内科

医長 渡邊 浩

新年あけましておめでとうございます。

当科では糖尿病専門医、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、看護師がチームを組んで糖尿病の治療を行っております。このうち19名が日本糖尿病療養指導士の資格を有しています。

糖尿病教育入院後5年間の血糖コントロールに与える効果を検証した国内の研究によれば、全体(180例)のうち、多くは平均HbA1c値が悪化することなく7%台を維持できていました。また、44%の患者は平均HbA1c 6.9%未満に維持できており、体重の増加率やインスリン増加量が少なく、合併症の進行率も低い等良好な経過をたどっています。なお、こうした長期的効果を維持できている患者の多くは、過去に糖尿病治療がなく、罹病期間が短い傾向にあったことも判明しています。

当科が行っている糖尿病教育入院は1週間の教育入院で日本糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフがそれぞれの専門性を生かし丁寧に指導します。また皮膚科、眼科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、整形外科との連携のもと糖尿病合併症の精査も行っております。教育入院中に、希望されれば、自己血糖測定、インスリン手技も指導しております。

初めて糖尿病と診断され糖尿病の知識がない、内服やインスリンで糖尿病治療を行っているにもかかわらず、食事療法や運動療法が実施できず生活習慣に乱れがあるため、血糖コントロールが不十分、合併症が進行してきている等でお困りでしたら当院での教育入院を勧めて頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。

呼吸器内科

医長 水本 正

新年あけましておめでとうございます。昨年4月に土谷総合病院に赴任して早9か月が経過しました。私自身これだけの規模の病院に対して呼吸器内科一人に対応するのは初めての経験でしたので、当初はさじ加減がよく分からず戸惑う場面も多かったのですが、徐々に慣れていき、最近ではカンファレンスや症例発表などに縛られない日々を満喫しております。

当科外来には循環器疾患や腎臓疾患をメインで通院し、呼吸器疾患を併発しているため呼吸器内科へ通院されている患者さんが多いです。気管支喘息やCOPDに対しての投薬治療、睡眠時無呼吸症候群の検査とCPAP療法、胸部異常陰影や間質性肺炎のフォローなどを目的に通院いただいております。

また、肺炎、膿胸などの感染症、気胸、喘息発作やCOPD急性増悪などで入院対応も行っています。肺癌の精査と治療に関しましては、呼吸器内科の人数や呼吸器外科の不在、設備の問題などで対応は難しいのですが、それ以外の疾患に対してはたとえ呼吸器内科が一人しかいなくても完結できると思います。

開業医の先生方、「そういえば土谷って呼吸器あったよね?」と思い出していただき、ぜひご紹介いただけましたら幸いです。本年もよろしくお願いいたします。



心臓血管外科

主任部長 山田 和紀

新年、明けましておめでとうございます。

当科では、心臓血管外科で扱う全ての分野に対応しており、直近の1年間では、①弁膜症 (TAVIを除く) 103例、②虚血性心疾患 47例、③大血管疾患 154例 (うち急性大動脈解離が64例)、④先天性心疾患 38例、⑤末梢血管疾患 264例 (うちカテーテル治療が212例) の手術を行うことができました。これも日ごろからの先生方の多大なご支援あってのことと存じます。篤く御礼申し上げます。

現在、力を入れている取り組みとして低侵襲心臓手術(MICS)が挙げられます。従来の胸骨正中切開からの手術と異なり、側胸壁(弁膜症では右側)に7cm前後の傷をおいて肋間から手術を行います。胸骨を切らないことで、出血量を抑え、感染のリスクを低減させることができ、早期のリハビリや社会復帰も可能となります。さらに女性の場合は皮膚切開の位置を工夫することで美容上の利点もあります。

弁膜症にたいするMICSは、2018年から症例を選んで取り組み始めて徐々に適応を拡大し、最近では弁膜症手術のうち6割程度をMICSで行っています。今後は弁膜症手術の8割をMICSで行うことを目標とし、さらにMICSでの多枝冠動脈バイパス術も取り組んでいく予定です。

これに加えて、低侵襲手術をさらに一步すすめるべくロボット心臓手術の開始に向けて準備をすすめているところです。手術支援ロボットのダヴィンチを導入し、まずは4月から泌尿器科手術から開始して、初夏には心臓手術も開始する予定です。これにつきましては、またあらためて先生方にご案内いたします。また昨年から下肢静脈瘤のレーザー治療も始めましたので、こちらのご紹介もお願いいたします。

麻酔科や手術室との連携の下、複数の手術の同時進行が可能な体制が取れており、緊急手術などの紹介についても全てに対応できるよう努めてまいりますので、今年も昨年に増してご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



写真後列左より 北浦医師、前田医師、上野医師
写真前列左より 古川医師、山田医師、望月(慎)医師



MICSの術中の様子



整形外科

部長 蜂須賀 裕己

新年明けましておめでとうございます。

いつも貴重な症例をご紹介下さいます各病院、クリニックの先生方には御礼申し上げます。

当科の伝統である手外科・微小外科・肘関節外科分野では救急外傷や難治症例を紹介して頂き、誠にありがとうございます。引き続き微小外科（マイクロサージャリー）の分野では先端的な治療を行っており、昨年は学会賞を受賞したり教科書執筆依頼を頂いたりすることがありました。これからも世界レベルの手外科・微小外科手術を患者さんに提供し、地域医療に貢献させて頂きたく存じます。

膝・足関節外科の専門外来では奥原副部長が高度な下肢外傷、膝関節・足関節外科の診療を行っています。変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術はもちろん、出来るだけ自分の体・関節を温存したいという患者さんに対しては単顆型人工膝関節置換術、脛骨骨切り術などの骨温存術も行っています。また、スポーツ愛好者に多い靭帯・半月板損傷に対しては関節鏡を使って治療しています。

上下肢の外傷、スポーツ障害、神経障害、関節リウマチ、先天性疾患、加齢性変性疾患、造形手術、難治性偽関節手術、機能再建手術に積極的に対応していきます。何卒ご紹介のほどよろしくお願い致します。

救急・緊急手術や、心臓・腎疾患既往のある整形外傷、整形外科手術後のリハビリテーション入院の患者さんも積極的に受け入れる努力を行っています。スタッフ数の問題で受け入れや受診が滞ることもあり、誠に御迷惑をおかけして申し訳ありません。引き続き鋭意努力して参りますので、もしお困りの症例がございましたら是非ご相談下さい。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



写真左より 蜂須賀医師、木森医師、奥原医師

小児科

医長 浦山 耕太郎

平素より各地域の先生方におかれましては、いつも患者さまをご紹介頂き心より感謝申し上げます。現在、小児科医3名（浦山、森田、水戸川）で、循環器疾患、新生児医療を中心とした診療を行っております。

昨年はマイコプラズマ肺炎が流行し、入院加療を必要とする症例も多く、先生方におかれましては、ご苦労されたのではないかと思います。一方で、コロナ窩に中断していた患者家族会（心臓病の子どもを守る会）の活動や交流会が徐々に再開され、病院外でのお子さんたちの表情をみることができ、我々としても日々の診療の励みになりました。また、患者・家族の皆様向けへ講演する機会を2回も頂き、永続的にフォローが必要な患者・ご家族と直接対話することで、患者—医療者の距離を縮めることが出来た？と思っております。

さて、出生数は減少の一途をたどり、2024年の出生数は70万人を割り込むと言われております。コロナ禍の影響が落ち着いた今年こそは少子化に歯止めがかかるのではと期待しておりますが、我々小児科医としましては、不安を抱えた患児やそのご家族に寄り添い、明るい未来を目標に日々邁進していく所存です。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

消化器内科

医長 平野 大樹

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。皆様に支えられ、より一層の医療の向上を目指して努めてまいりました。本年も引き続き、地域医療に貢献できるよう、誠心誠意尽力してまいります。

恐縮ではございますが、内視鏡検査について案内をさせていただきます。当院では高性能な内視鏡システム「OLYMPUS社製 EVIS XI」を使用し、微小ながんなどを早期発見することで、治療の選択肢を広げ、患者様の予後を改善できるよう努めています。

胃がんや大腸がんは非常に多く、初期段階では症状がほとんど現れないため、早期発見には定期的な検査を受けることが必要となります。特に40歳以上の方や、家族にがんの病歴がある方は、定期的な内視鏡検査を受けることを強くお勧めしています。

当院では以前から告知しておりました下部消化管内視鏡検査の前処置を行うための個室スペースを院内に新設致しました。また、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）ともに、希望される方には鎮静剤（睡眠薬、鎮痛剤など）を使用し、検査入院も可能なため、患者様負担を少なく検査が可能です。条件（抗血栓薬内服の有無や病変の大きさ）はありますが、検査時に治療をすることも可能です。また、生活習慣の改善や食事指導など、患者様が健康を維持できるような支援も行っています。

新年を迎え、私たちは患者様の健康を第一に考え、引き続き誠実で質の高い医療を提供するように努めてまいります。貴院にて診療中の患者様で、当院での専門的な検査や治療が必要とされる方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけますと幸いです。

皆様にとって健康で幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。本年も変わらぬご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年6月に新設された
大腸内視鏡前処置室



当院で使用している胃カメラ・大腸カメラの例



腎・血液浄化療法科

主任部長 新宅 究典

新年あけましておめでとうございます。昨年度も当科に対し多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当科では、慢性腎臓病、末期腎不全、急性腎不全などの幅広い腎疾患を対象とした検査・診断・治療を外科医・腎臓内科医が共同で行っております。慢性腎臓病については、慢性腎臓病教室を開催するほかに、腎代替療法外来等で医師、看護師、栄養士など多職種で患者様と生活、治療方針等について共に考えさせて頂いております。

また、一昨年より1000件を超えた内シャント血流不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術においても、伝達麻酔を導入し、患者様の疼痛軽減を図っております。また、重症下肢虚血については心臓血管外科、放射線科、皮膚科と連携し吸着式浄化療法も行っております。

本年も、引き続きご支援ご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

外科

新年にあたりご挨拶を申し上げますとともに、スタッフの紹介をさせていただきます。

甲状腺がんを筆頭に消化器がんや胆石症・腹部ヘルニア等の手術を主に行っております。地域に根ざす中核病院として患者さん中心の医療を、チーム一丸となって推し進め努力して参ります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長・外科診療部長
杉野 圭三

土谷総合病院における2024年の甲状腺手術総数は約200例でした。コロナで減少した手術数はようやく回復基調にあります。また、進行甲状腺癌に対する分子標的薬治療も各種の薬が保険適用を認められ、これから更に治療成績向が期待されています。しかし、進行甲状腺癌に対する手術治療が第一選択あることに変わりなく、当科でも常に手術手技向上を目指しています。

最近、個人目標を「万巻の書を読み、万里の路を行く」に置いています。文人画家の董其昌や富岡鉄斎の好きな言葉の一つです。旅先で本を読み、写真撮影をするのは至福のひとつです。広島県内においてもまだまだ知らない場所や知らない書物が多いことに驚かされます。(目標成果の一部については病院ホームページ『甲状腺外科草子』をご覧ください。2024年11月までに121話となっています。あくまで個人的見解の駄文です)

消化器の手術を主に担当しています。高齢者社会が叫ばれて現実のものとなり、すでに人口「減」少社会に入っている日本です。内科的治療が進化高度化し長寿の恩恵がもたらされた一方で、心血管系疾患などのリスクを抱えた高齢者の手術をも、ごく当然の様にこなしているなど実感します。去年は働き方改革・診療報酬改定・アフターコロナの法改正など「改」まったものが多く、病院経営にも大きく影響しているように感じます。今年がどんな年になるのかは分かりませんが、これまで以上に病診連携を高め地域医療に貢献する所存です。

外科主任部長・診療補助部長 西原 雅浩



当科は、日本内分泌外科学会専門医制度認定施設に加えて、日本甲状腺学会認定専門医施設として新たに認定を受けました。複数の専門医により診療を行っておりますので、甲状腺疾患特に腫瘍性病変の診断、加療の適否、進行甲状腺癌の治療に関してお困りの際にはお気軽にお声がけください。

副部長 川崎 由香里



謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆さまにおかれましては、日頃より地域医療に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。去年は、多くの患者さんを先生方からご紹介いただき、また多岐にわたる症例について貴重なご助言を頂戴し、大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本年は、さらに先生方との連携を強化し、診療の質の向上を目指していきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

医長 佐藤 幸毅



耳鼻咽喉科

医長 長 陽子

新年あけましておめでとうございます。

当科外来では中耳炎・難聴・めまいなどの耳疾患、副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・嗅覚障害などの鼻疾患、急性扁桃炎・急性咽喉頭炎・急性喉頭蓋炎などの咽喉頭疾患等、耳鼻咽喉科全般の幅広い疾患に対応しております。また、広島大学病院と提携して年間約50件の内視鏡下副鼻腔手術を3-4日間の短期入院で行っております。嚥下認定看護師や栄養士と一緒に患者様の嚥下評価を施行し、嚥下リハビリや食形態の調整なども行っております。

耳鼻科領域の不調を訴える患者様、嚥下評価が必要な患者様、めまいや急性感染症など入院加療が必要な患者様などおられたらぜひご紹介下さい。よろしくお願い致します。

循環器内科

副院長・内科診療部長
循環器内科主任部長 村岡 裕司
不整脈センター長

新年あけましておめでとうございます。先生方におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素は当院の診療に際して格別のご指導、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

当科では昨年より心臓リハビリテーションを本格稼働しております。病棟フロアの一部を専用のエリアに改築し、清潔感のある約250平米の広い環境でのリハビリは患者様に好評を得ております。CPX（心肺運動負荷試験）により、患者様の病状や身体能力に応じた運動量を決定し、安全かつ有効なリハビリテーションを提供することにより、患者様の生活の質（QOL）を高めるのみならず生命予後の改善につながるようチーム一丸となって努力しております。

一方、不整脈分野では昨年、新しいアブレーション法としてパルスフィールドアブレーションが日本に導入されました。従来と比較し安全性に優れ、治療時間も短縮されます。当院でも早期に導入し、このたよりが先生方のお手元に届く頃には治療を開始しているものと思われ、有効な治療選択としてご提案できるものと考えております。

最先端の医療を導入しつつ、患者様一人ひとりに寄り添った「最善の」医療の提供に努めてまいります。

寒さ厳しき折、どうぞご自愛ください。本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



心臓リハビリチーム



心臓リハビリテーション室

◆各教室のご案内

参加費：無料

場所：8階会議室

疾患を持つ方とご家族、又は興味のある方ならどなたでも参加できます。
ご予約・お問い合わせ：☎ 082-243-9191 までご連絡ください。

教室名/時間	月日	内容	担当	お問い合わせ
心臓病教室 14時30分～ 30分程度	1/6	お薬について	薬剤師	心臓血管センター
	2/3	血管の病気について	医師	
	3/3	血圧について	看護師	
慢性腎臓病教室 14:30～15:30	1/15	冬のカサカサかゆみ対策 おすすめの間食 ～何食べる？～	医師 管理栄養士	看護部長室 管理看護師長 (渡部) ※参加申し込みは、開催前月の月末までにお申し込みください。
	2/5	あなたの足守ります 足を守るための食事のヒント	看護師 管理栄養士	
	3/5	透析医療は進化しました 透析医療は進化しました ～腎代替療法選択外来～ 透析医療は進化しました ～食事の違い～	医師 看護師 管理栄養士	
肝臓病教室 14:30～15:30	1/27	肝臓病の栄養 / 未定	管理栄養士/ 医師	北外来
	3/24	肝臓病の運動療法	理学療法士	